

# 子どもの読書活動支援者のための研修会（県北）

**目的：** 地域で子どもの読書活動を推進するボランティアの資質向上を図り、学校図書館への支援等も行える人材を養成する。

**日時：** 平成23年9月29日（木）～10月1日（土）

**場所：** 福島県立図書館

**参加者：** 39名（受講者34名、市町村行政職員5名）

## 【参加者からの声】

児玉さんの紹介した本は、以前読んだ本でも新たな価値を見出すことができ、得たものが多かったです。

## 【1日目】

### 講演 「子どもと読書」～選ぶ・読む・感じる・そして続ける～

JPIC読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏

子どもにとっての読書活動の大切さについて、児玉さんの実践事例を織り交ぜながら、講演をいただきました。

また、『はなをくんくん』『いったでしょ』などたくさん本を紹介しながらの具体的なお話は、実際にボランティアとして活動している受講者にとって、たいへん興味深くわかりやすい内容でした。

読書活動を推進するために、「興味と関心」「子どもとのかかわり」「継続」の大切さを児玉先生のお話から強く感じました。



## 【参加者からの声】

子どもたちの読書の現状と学校図書館の機能・役割についてたいへんよく理解できました。

### 講義① 「活動の意義について」

～学校図書館とは！～

福島県教育庁県北教育事務所学校教育課 指導主事 横山 貴英

～ボランティアとは！～

福島県教育庁県北教育事務所総務社会教育課 社会教育主事 小林 雄



県北教育事務所指導主事より、子どもたちの読書の現状や小学校の取組み事例をもとに学校図書館の機能・役割、そしてこれからの学校図書館に求められる課題について説明がありました。

続いて、同事務所社会教育主事から、学校図書館ボランティアの役割や活動についての話を通して、学校図書館ボランティアが、今後、子ども読書活動

推進にとって重要な役割を担っていくこと、学校と地域のつながりが大切であることについて説明がありました。

## 講義② 「子どもへの図書館活動」～日々の実践から～

福島県立図書館 資料情報サービス部 児童資料チーム 主任司書 吉田 久恵 氏

2日目は、県立図書館の司書である吉田さんが児童サービスについて日々の実践の中で、大切であると感じていることについて、実践例を交え丁寧にお話いただきました。

「なぜ、図書館に児童サービスが必要であるのか」、「児童サービスに携わる者の要件」、そして児童サービスのひとつである「フロアワークを行うときの留意点」など、子どもと本を結びつける役割としての基本を学ぶことができました。



### 【参加者からの声】

選書やフロアワークの重要性を認識できた。  
図書館における児童サービスの意義・目的を学べたことで、子どもに対しての図書館の必要性について改めて実感できました。

## 演習「読み聞かせの技術から子どもと本を結ぶ」～はじめの一步また一步～

J P I C 読書アドバイザー 児玉 ひろ美 氏



1日目に続き、講師に児玉さんを迎え、「読み聞かせ」についての演習を実施しました。

読み聞かせの絵本として約40の本を紹介いただきながら、「選書のポイント」「読むための技術」「お話会のプログラム」など、実践にすぐに結びつくような役に立つ内容のお話やアドバイスをいただくことができました。



### 【参加者からの声】

本を紹介いただきながらの読み聞かせの仕方、本の扱い方など具体的で参考になりました。

童心にかえたような気分で絵本を見、聞かせていただき、とても気持ちがよかったです。私がこんなに気持ちがよいのだから、子どもたちだったらもっと◎だと思いました。

児玉さんのお話は、深く、どんなにゆるい話に流れても、キュッと元に戻して、緊張感もほどほど。すばらしい講座でした。



## 事例発表「行政と協働と読み聞かせボランティア」

NPO法人夢ネットワーク（伊達市）藍原 恵美子 氏

「ボランティアの取組み、活動状況について」～読み聞かせの実際を中心に～

児童図書研究グループ「トトロ」（二本松市）斎藤 千江子 氏

県北域内で活動する2つの読書ボランティア団体から、それぞれの活動についての実践事例を発表していただき、活動を支える熱い思いや活動を継続していくことの大切さを強く感じました。



NPO法人夢ネットワーク  
藍原 恵美子 氏



### 【参加者からの声】

それぞれの地域において、特色ある取組みを展開されている様子を聞けてたいへん勉強になりました。

一生懸命な姿勢はたいへん私に勇気をいただきました。



児童図書研究グループ「トトロ」  
斎藤千江子 氏・半澤順子 氏・川名なぎさ 氏



## 講義③ 「公共図書館との連携」～ボランティアに望むこと～

本宮市立しらさわ夢図書館 副専門司書 柳沼 志津子 氏

公共図書館の立場から、学校との連携と学校支援事業をする意義、そしてボランティアとのかかわりについて、実践事例を踏まえながらお話をしていただきました。

そして、ボランティアへ望むことや今後の課題について提言をしていただきました。



### 【参加者からの声】

図書館司書の努力、積み重ねてきた力を感じました。その知識と技を大いに利用して欲しいとの声を聞いて嬉しく思いました。子ども読書に関わる者として、身近に柳沼さんのような方がいることを心強く感じました。

## 交流会「子どもの読書活動について語り合おう！」



参加者全員が3つの班に分かれ、それぞれの立場から子ども読書活動について意見交換をしました。

この3日間の研修を締めくくり、今後の活動につながる充実した話し合いがなされました。

### 【参加者からの声】

この交流会には、学校で活動する方、公民館図書館で活動する方をはじめ子育てサポーター、元教員、学校支援地域本部のコーディネーター、そして行政職員、県立図書館や市町村図書館司書、教育事務所指導主事、社会教育主事の参加があったため、様々な意見が聞け、参考になることがたくさんあった。



### 御意見 要望 感想（参加者アンケートから）



まだ、歩み始めの自分にとっては、「すべてを吸収しなければ」「全てやらなければ」みたいなものを感じましたが、焦らずに仲間と共に進んでいくことを喜びにしていきたいと思っています。たくさんある絵本をできるだけ多く触れ、子どもたちに伝えられる人になりたいと思いました。

本講座を受講して、読書活動に力が湧いてきました。学校から“注文”がくるとよいのですが…。

今後の自分たちの活動に生かせそうなポイントがたくさんありました。

学校の司書教諭の先生の活動がもっと活発になるような配慮や支援をお願いします。

このような研修講座、情報交換ができる場が身近に開催されるといいなと感じました。

今後も気軽に参加できる研修会の開催を期待しています。

ブックトークなど技術的なことを学ぶ機会がほしいです。

交流会の時間が短かった。

内容が盛りだくさんで、テーマが絞りきれない感じを受けた。

